

令和5年10月6日

保護者様

浜松市立西小学校長 渡辺 浩司

## 全国学力・学習状況調査の分析と報告について

清秋の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は学校の教育活動に多大な御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受け、本校6年生の学習状況の分析や対策の検討結果について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1 学習状況について 【資料1参照】

今年度の西小の6年生は、国語・算数の平均正答率が、ともに全国平均及び静岡県平均、浜松市平均を上回りました。子供たちはよく頑張りました。それは、5年生までの積み重ねはもちろん、家庭学習にも真剣に取り組んできた結果と言えます。保護者の皆様の御協力に感謝いたします。

#### 2 児童質問紙（意識調査）について 【資料2参照】

児童質問紙では、生活の諸側面や学習意欲、学習に対する興味・関心などが調査されました。西小の児童は、基本的な生活習慣が身に付いています。また、友達関係も良好で、安心して生活していることが伺えます。また、学習にも意欲的で、既習事項や見方、考え方を働かせて学習し、知識を常に更新していることが分かります。今後も子供たちのよさを積極的に認め、励ましながら、家庭・地域・学校と連携を図って教育活動を進めていきたいと思っております。



調査問題は、以下のURLから閲覧できます。

令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

6年生については、お子さんを通して全国学力・学習状況調査の個別の「調査結果」をお渡ししました。今後、家庭学習の進め方を考える際にお役立てください。

## 【資料1】

調査結果（正答率）

	国語	算数
全国	67.2%	62.5%
静岡県	67%	62%
浜松市	69%	63%
西小	77%	70%

(○…成果 ▲…課題)

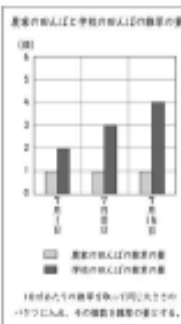
- 国語**
- 多くの問題で正答率が全国や静岡県、浜松市を上回っている。
  - 「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域で安定した力が付いている。
  - 話や文章の中心となる語や文を捉えることはできている。
  - 領域を問わず、「考えの形成」に関する問題で、おおむね良好な結果が見られた。
  - ▲ 自分の考えを形成する過程において、複数の情報を関係づけて捉えることに課題がある。
  - ▲ 記述式の問題への無回答率が高かった。分からないとあきらめてしまう傾向がある。

### 小国課題 1 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

正答率 浜松 32.7% 全国 26.7% 無解答率 浜松 7.2% 全国 7.1%

#### 問題の概要

【川村さんの文章】の□に、下の条件に合わせて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書く。



#### 【カード④】

7月20日【農家の石山さんのお話】  
 ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。  
 ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。  
 ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

#### <条件>

- 学校の米作りの問題点については、グラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- (略)

#### 誤答例の分析と課題

米作りの問題点について書く際に、「グラフ」と「カード」それぞれから分かることを関係付けて捉えていないため、なぜその解決方法がよいのか十分説明できない。取り上げた複数の情報が、どのように関係し合っているのか、自分の考えをどのように支えているのかなどを明確に意識できていない。

#### 授業改善のポイント

自分の考えを伝えるために、複数の情報（図表やグラフ等）を用いて書き表し方を工夫する際には、以下の点について、対話したり、振り返ったりする機会を持つ。

- ・単元の始めに、教師のレポート等のモデル文を見て、その中の情報は、意見とどのような関係性にあり、どのような働きをしているのかについて考える。
- ・意見文等を推敲する際に、自分の考えを支えるために取り上げる図表やグラフなどが、自分の考えとどのような関係性にあり、どのような働きをしているのかについて考える。

➡ 「令和5年度【小学校国語】報告書」  
 大問1 授業アイデア例参照

算  
数

- 「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域で安定した力が付いている。
- 式を日常生活に関連付けて読み取ることができている。
- 図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。
- 短答式、記述式の無解答率が高い問題が多かった。

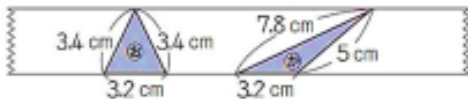
### 小算課題 2(4) 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること

正答率 浜松 24.3% 全国 20.8%

#### 問題の概要

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。

(4) えいたさんたちは、テープを百線で切って、下のよきな㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのよきなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだだけを書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

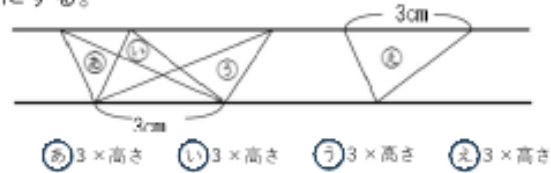
#### 誤答例の分析と課題

高さの具体的な数が示されていないと面積を比べられないと判断している子供が多いと分かった。また、記号は選択したけれど説明を書かない子供も多く、自分の判断の理由を言葉ではっきり説明できないことが予想できる。

#### 授業改善のポイント

三角形の底辺と高さの関係の理解を確実にするため、下図のように平行線の間に底辺の長さが等しい三角形を複数かいて、面積を求める式と対応させる。式が全て同じになるとおさえることで、面積が等しくなることが明確になる。

また、自分の考えを説明させる場面では、図や式などの数学的な表現を的確に使うことを通して、そのよきが感じられるようにする。



## <対策について>

- 漢字や計算など基礎基本の定着を一層図るために、授業や家庭学習で練習するとともに、日常生活の場面で適切に活用できるようにする。
- 授業の様々な場面でICT 機器を効果的に活用する。
- 国語科では、様々な情報と情報との関係を見だし、印をつけたり矢印でつないだりして結びつけて整理する。
- 国語科では、話し手の考えと自分の考えとを比較して、共通点や相違点を整理することや根拠を明確にして自分の考えを表現するようにする。
- 算数科では、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにする。
- 算数科では、図形の意味や性質をもとに考えたことを説明したり、データから読み取った情報をもとに考えたりする場を設定する。
- 全体的にはよくできているが、無答も多いことを考えると、分からなくて困っている子がいると思われる。困っている子の困り感に目を向けて、きめ細やかな指導を行っていきたいと思います。御家庭でもお子さんの学習を見ていただきフォローをしていただけたらと思います。

## 【資料2】

○…全国を上回る ▲…全国を下回る  
 (「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた割合%)

設 問	西 小	全 国
朝食を毎日食べていますか。	○98.5	93.9
自分には、よいところがあると思いますか。	○89.2	83.4
将来の夢や目標を持っていますか。	○84.6	82.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	○96.9	96.7
困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	▲60	70.8
学校に行くのは楽しいと思いますか。	▲80	87.1
友達と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	○86.2	78.9
読書は好きですか。	○80	70.4
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	○87.7	77.2
授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか。	○92.3	81.4
国語の勉強は好きですか。	○64.7	59.4
国語の勉強は大切だと思いますか。	▲92.4	94.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	○95.3	93
算数の勉強は好きですか。	○70.8	63.1
算数の勉強は大切だと思いますか。	○96.9	94.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	○100	93.6
英語の勉強は大切だと思いますか。	○95.3	91.6

☆「朝食を毎日食べている」児童の割合が高く、家庭生活が安定しているため気持ちが安定していることが分かります。

☆「自分には、よいところがあると思う」児童の割合が高く、自己肯定感が高い子が多いことが分かります。このことが自信につながり、「夢や目標を持って生活している」「人の役に立つ人間になりたい」という明るい未来を思い描くことにつながっていると思われる。

☆国語、算数、英語の勉強は大切で、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童が多く、意欲をもって学習に取り組んでいることが分かります。今後も子供の興味関心を大切に、生活に役立つ授業展開を心掛けます。

★「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しい」と答える児童の割合が低かったです。言いたいことがあっても我慢をしている子がいるかもしれません。教師と子供、子供同士など温かい人間関係を築き、安心して楽しい学校生活を送ることができるよう子供たちの声に耳を傾けていきます。御家庭でもお子さんの様子をよく見ていただき、相談相手になっていただけますようよろしくお願いします。